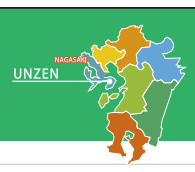
ホテル エーゼット
HOTEL AZ だより
Vol.10 令和4年9月号
ご自由にお持ち帰りください

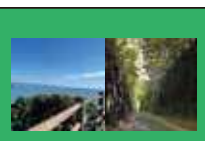
島原鉄道サイクルトレイン
2022年、運行開始した『サイクルトレイン』は、自転車をそのまま搭載できる列車。
完全予約制（問い合わせ：島原鉄道総合案内所）

～人・時めぐり逢い紀行⑤～
夏休み真っただ中の8月初旬、ホテルAZ雲仙店のある雲仙市に金澤秀三郎市長を訪ねました。

［発行問い合わせ］
株式会社アメイズ 福岡事務所
TEL:092-605-3321 FAX:092-605-3335
〒811-0213 福岡市東区和白丘2-3-2
令和4年9月発行 発行責任者 穴見 賢一（代表取締役社長）



日本最初の国立公園である雲仙天草国立公園及び島原半島県立公園を擁する雲仙市。小浜温泉、雲仙温泉、島原温泉など温泉に恵まれ、観光産業が主力産業の一つ。観光の町として長崎県下で三本の指に入る自治体です。農水産業も盛んで、全国に誇る特産品がたくさんあります。



人時邂逅（ひとときかいこう）

雲仙市役所にて（2022年8月2日）

金澤 秀三郎
雲仙市長 長崎県
Hidesaburo Kanazawa

1960年生まれ。長崎県雲仙市小浜町出身。小浜食糧株式会社の代表取締役、県議会議員を経て、2013年雲仙市長選挙に無投票で初当選。現在、三期目。趣味は読書と風呂

穴見 賢一
株式会社アメイズ 代表取締役社長
Kenichi Anami

1970年生まれ、大分県佐伯市出身。2016年『ホテルAZ』を全国86店舗展開する『株式会社アメイズ』代表取締役社長に就任。柔道初段。趣味はラジコン、ドローン、ロードバイク

金澤　瑞穂町という場所に、御社のホテルが建ち始めた時は、正直驚きました。街中や駅周辺でもないこんな場所にホテルが建つんだと。しかし、オープンしてみると、駐車場にいつも車がたくさん止まっているし、見事なものだと前々から関心を持っておりました。どんなマーケティング戦略をとられているんですか？

穴見　私の父で、ジョイフルの創業者である当社の前社長が、ジョイフルを全国展開するために、自分で車を運転して地方を見に行くたびに宿泊施設探しに困っていたそうです。目的地は辺ぴな場所が多く、モーテルとか民宿とかをどうにか見つけてということを繰り返しているうちに、ビジネス利用のホテル需要は、従来のホテル立地とは違うところにあるんじゃないかと考えるようになり、現在のような出店形態になりました。

金澤　ご自身の体験からということですか。見事ですね。

穴見　ありがとうございます。当社の戦略には二つの特徴があり、一つがおっしゃられた通り、郊外型の立地です。二つ目の特徴は、価格力です。駅前の立地にこだわると家賃などが高くなりますが、当社は家賃を抑えられる立地に出店することで、1年を通して同じ価格で気軽にご利用いただけます。ビジネス利用のお客様が中心ですが、スポーツ団体のお客様のご利用も多いんです。私は昨日、広島の三原店に宿泊しておりました。そこに国見高校のサッカー部も宿泊されており、チェックアウト時にたまたま居合わせたんですが、とても礼儀正しく、全員が整列して「お世話になりました」といって出発されました。清々しい光景でした。

大きなスポーツ大会を次々と誘致

金澤　うれしいお言葉ですね。国見高校のサッカー部は、小嶺元監督時代に、21回の全国出場を果たしたほか、Jリーグ得点王の大久保嘉人選手などのプロ選手を輩出した高校です。平成21年の全国高校サッカー選手権大会出場を最後に全国大会への出場から遠のいていましたが、最近また強くなってるんですよ。有志の方々が民間で資金を借り入れして、サッカー部の寮を造るなど地域を挙げてのサポートもあり、本当に頭が下がります。

穴見　市としてスポーツツーリズムの推進にも力を入れていらっしゃるとうかがいました。

金澤　今年4月、九州大学バスケットボール連盟と、同連盟主催の試合を誘致する協定を締結しました。スポーツ大会は都会で開催されることが多いのですが、この協定によって当市の地域活性化につなげたい考えです。協定内容は、今春オープンした「小浜体育館」など市内の体育施設でリーグ戦などを年1回以上実施し、選手や関係者は市内宿泊施設を利用するというものです。市としては体育施設の使用料を免除して、宿泊料金についても両者で協議していきます。試合の後、温泉や美味しい食事など雲仙の魅力を堪能していただきたいという思いで、スポーツツーリズムに取り組んでいます。さっそく5月に「小浜体育館」で2回大会が行われ、AZ雲仙店様へも宿泊させていただきました。この時は約900人の監督、選手の皆様が宿泊されたのですが、御社は、リーズナブルでサービスの評判がよいとのことで、10月に開催される大会についてもお問い合わせが来ているようです。

穴見　当ホテルではビジネスのお客様は月曜から金曜までのご利用が中心です。土日にスポーツや観光のご利用が増えると、当社にとっても追い風ですので、ぜひご利用いただければと思っています。それと、私は趣味で自転車に乗っていまして、先日、しまなみ海道を走ってきたばかりです。今日は雲仙市に来て、サイクリストの目線で見ると、古い町並みや昔の細い道がそのまま残っていて、ぜひ走ってみたいなと思いました。細い道は車もあまり気にしなくてよいですからね。これも雲仙市ならではのスポーツ資源ではないでしょうか。

金澤　穴見社長ご自身が自転車に乗られるんですね。おっしゃられる通り、先ほどの国見高校のある国見町では、サイクリストに優しい町づくりに熱心に取り組んでいただいています。町のいろいろなポイントに自転車ラックを設置するとか、旅館でも自転車が置ける配慮やサイクリストに向けの軽食を用意するほか、サイクリングマップを作って女将さんが案内するサービスもあります。今年3月から島原鉄道が自転車を積み込める専用車両（サイクルトレイン）の運行もスタートしています。

穴見　例えば、島原半島を一周すると、どのくらいの距離になるのでしょうか。

金澤　100キロくらいだと思います。

穴見　本格的に自転車に乗られる方にはちょうど良い距離ですね。当社も自転車で来られるお客様に安心して泊っていただける体制を整えたばかりです。今までは輪行袋という自転車バッグに入れないとお部屋に置けないルールでしたが、現在はホテルで用意する濡れ雑巾で軽く拭いて、壁などが汚れないように気を付けていただければ、室内への持ち込みが可能です。AZ雲仙店もサイクリストのお客様に対応しています。

金澤　それは貴重な情報です。エレベーターに自転車を載せて、上の階まで行っていいんですか？

穴見　もちろんです。サイクリスト対応に当たって、実験的にラックや工具を置くホテルをピックアップする際、雲仙店も候補に入ってきたので、やはり魅力的なサイクリングコースということで認識されているのは間違いないと思います。

金澤　他にも隣の南島原市では島原鉄道の跡地を自転車コースにしようという取り組みがあったり、九州各県と連携して、九州横断、縦断のコースを整備したりして、PRに注力しようとする動きがあります。

穴見　今日は福岡から来たのですが、道路に関していうと、雲仙へのアクセスがずいぶん良くなっていますね。

金澤　諫早のインターチェンジからの島原道路は、用地が確保できた箇所から順次工事が行われています。島原半島は全部事業として採択されたので、後は年間予算がどのくらいつくかというところに焦点が移っています。いつ完成するかというのは明確に出せないのですが、道路事情は年を追うごとに向上するのは間違いありません。

雲仙固有の自然、食材に出逢う旅

穴見　アクセスは、産業活性に直結するので楽しみですね。雲仙市は観光業以外にも農業が盛んだとお聞きしました。

金澤　そうなんです。ジャガイモは北海道の各市を抑えて日本一（2019年農林水産省統計：市町村別産出額）となりました。当市は面積的に広いこともあり、大型基盤整備を進めてきました。農地集積や、規模拡大、作業効率化によって、国見町の白ネギや南串山町のジャガイモ農家では所得も子どもの数も増加しています。

穴見　一番になるというのは、そういう効果も生み出すんですね。

金澤　他にもイチゴやブロッコリー、ネギのほか肉用牛・乳用牛といった畜産が長崎県内1位の産出額です。「何でもできる」のですが、逆に、コレという特産品がないのが悩みなのです。その中で手応えを感じているのが、種採り野菜です。これは「食の世界遺産」に選ばれました。岩崎政利さんという農家さんが、種を自家採取する農業を展開されています。これだけの多品種の自家採取種で農業を展開しているのは、世界中探してもないといわれる方もいらっしゃいます。雲仙の気候や風土に適応してきた品種ですので、生命力が強くて、農薬を使わず自分の力でおいしく育ちます。これが脚光を浴び始めたポイントです。

穴見　種は何種類あるんですか？

金澤　80種くらいあります。岩崎さん自身は農業で忙しくてほとんど表に出ませんが、岩崎さんの野菜に魅了されて東京から移住された方が、直売所を運営しながら多方面で種採り野菜の魅力を発信してくださっていて、消費の拡大や生産者の地位向上につながっています。ほかにも都内有名料理店のシェフが移住してきてくれるなど、これまでにはない良い流れが来ています。パッとした華やかさはないんですが、しっかりとした根を張っていっている手応えがあります。

穴見　自然の力で育てられた野菜やフルーツは、本当においしいものになるという話を私もたまたま本で読んだばかりでした。そんな話を知りたい人、体感したい人がたくさんいるんじゃないでしょうか。

金澤　刺さる人には刺さりますね。牛で一等賞とかジャガイモで一番とは違う価値観です。今年1月には「雲仙観光局」が設立され、観光と一次産業との相乗効果で、旅先としても生産地としても選ばれるよう、地域全体の価値の向上を目指しています。雲仙市と島原半島が一体となって長期滞在できる「島原半島とともに6日間滞在できる雲仙」がコンセプトです。雲仙の大地に根づいてきた種採り野菜のような地域固有のモノ、コトを目玉にしていきたいです。

穴見　他にもまだあまり知られていない雲仙の魅力的な場所やイベントがあれば教えてください。

金澤　ホテルAZさんの近辺ですと、岩戸（いわど）神社です。樹齢何百年という木々が生い茂っている参道の先に、縄文時代から人が削ってきたといわれる大岩があり、それがご神体です。ほとんど人が来ることはなかった場所ですが、最近、SNSで話題になり、市への問い合わせが増えています。本当に神々しい場所です。今秋にオーケストラのコンサートを開催予定です。後は神代という地区にある鍋島藩神代領の武家屋敷群です。江戸時代からの街並みが残るだけでなく、近世から現代へ向かう風景、建物の変化も保存されている珍しさも含めてまちなみ保存地区になっています。神代地区にはお尻を叩きながら踊る「鳥刺し」という250年以上続く伝統芸能も継承されています。

穴見　ちょっとお聞きしただけでも、雲仙ならではの歴史や文化に触れる旅ができそうです。観光、農業などいろんな産業が振興する中で、当ホテルを使っていただける機会も増えそうです。

雲仙・普賢岳の大火砕流から31年

金澤　今後、こちらの方に新しくホテルAZを造られる予定はないんですか？

穴見　今のところはないのですが。

金澤　というのも、宿泊施設は災害時にもなくてはならない存在なんです。雲仙普賢岳の火砕流から31年が経過し、火山活動も落ち着いた状況にありますが、昨年8月の大雨によって、雲仙温泉街の小地獄地区という場所で土砂崩れが起き、市民3名の尊い命が犠牲になりました。雲仙地獄の一部も土砂に埋もれました。皆さんにはいったん市営施設に避難していただいたんですが、私が現場を見に行って感じたのは、慣れない生活でたまるストレスの大きさです。市営施設などで過ごすのは2、3日が限界だと思いました。被災した方々にとって何よりも必要なのは、できる限り普段の生活に近い住環境です。その環境があって初めて気持ちも落ち着くし、先の話ができるようになります。現在、雲仙温泉の旅館組合と小浜温泉の旅館組合を足して30弱の宿泊施設と災害時の宿泊提供の協定を結んでいます。御社ともぜひ協定を交わしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

穴見　もちろん、協力できることがあれば、協力いたします。当社の歴史は大分の亀の井ホテルを購入したところから始まるんですが、ホテルの前で20軒以上が燃える火事が起こった時、被災された方々に一カ月以上、お部屋を開放したこともあります。最初の1、2週間は無償で提供したと思うのですが、宿泊施設はそういう救済の場所にもなるということは実感しているところです。

金澤　最近でこそ大きな災害は起きていませんけど、瑞穂町は以前、時間当たりの降水量で全国1位という記録があるエリアです。御社のある瑞穂地区は雲仙、小浜から離れていますのでリスク分散する意味でも、提携していただければ、私どもとしては本当にありがたいことです。

穴見　シンプルですが、清潔でプライバシーの守られた空間で、自分のお家にいるようにゆっくりお休みいただくのが当ホテルの目指すサービスです。これからもいろいろなシーンで、雲仙市の発展や安心に貢献できるホテルでありたいと思います。

真剣勝負の後は、温泉&観光でゆったりスポーツツーリズム

小浜体育館

雲仙市内には、長崎国体の会場になった『国見総合運動公園』や『吾妻体育館』といった施設が充実。
今年4月にオープンしたばかりの『小浜体育館』は監督や選手が温泉街に泊まって市内観光するスポーツツーリズムの推進拠点としても活用される。

揚げたて『じゃがちゃん』を頬ばりながら

千々石展望台

日本景観100選に選ばれた橘湾を見渡せるスポット。
外皮がカリっと揚がったじゃがいも串『じゃがちゃん』は、ここでしか味わえないグルメだ。
『千々石観光センター』では、お土産ショッピングが楽しめる。

平飼いの有精卵を使った千鶏カステラ本舗のカステラ。卵も販売されている。

昭和39年発売の長崎銘菓。お菓子に刻印されているのは十字架（クルス）で、島原の乱の指導者・天草四郎の刀の鍔（つば）の模様がモチーフ。

食の世界遺産に選ばれた在来種、固定種野菜が買える

オーガニック直売所『タネト』

現代の食卓に並ぶ野菜のほとんどは『F1』という種で作った野菜だが、雲仙の農家・岩崎政利さんが作るのは、種採りをしながら作り続ける固定種野菜、在来種野菜。何代もかけて土地の土になじみ、農薬や化学肥料を使わずとも土の力、自分の力でおいしい野菜になっていく。
オーガニック直売所『タネト』には生命力あふれる旬の野菜が並ぶほか、食堂、器・雑貨コーナー、古本屋コーナーがある。料理教室や岩崎さんの講義も受けられる。

田園風景の中に佐賀藩のお屋敷群がこつ然と!?

神代小路（こうじろくうじ）

国見町の神代小路は、佐賀藩・神代領の領主鍋島氏が造った町。1860年建築の棟も残る鍋島邸内や枯山水様式の広大な庭園を見学できる。武家屋敷群に住んでいる子孫が長屋門を再築したり、江戸時代からの家を改修した一棟貸のホテルに泊まれたりと、今も町の歴史がイキイキと時を刻み続ける。残すだけではなく、活用していこうという施策に特色がある。

ご神体は、巨大な岩!SNSで話題のパワースポット

岩戸（いわど）神社

訪れる人が急増したため、総代たちが協力し合って駐車場を整備したという。ご神体の巨大な岩には素晴らしい音響効果もあり、コンサートも開催されるようになった。
地元の人が水を汲みにくる甘露な湧き水もある。

対談を終えて。

雲仙は、キリシタン迫害、天草四郎の島原・天草一揆の歴史が眠る地でもあります。歴史、文化、風習、火山、海、温泉といった大自然などに少し触れただけなのですが、島原半島・雲仙という場所の魅力を濃く深く感じられた1日でした。食の世界遺産になった固定種野菜・種採り野菜という観光の目玉が真の生活環境から生み出されている点も特徴的です。派手さはないけれども、どっしりとした根っこのある雲仙らしいエネルギーを感じました。私たちもより地域に根づいて、「あってよかった」といっていただけるホテル作りを頑張っていきたいと思います。
（穴見　賢一）